

## 中学生の「税についての作文」

大川 税務署 長賞

### 日本と外国の消費税

大木町立大木中学校

三年 池上 凜

「税金なんか自分に関係ない。」  
「そもそも税って何。」

そう思った人はいませんか。そんな人でも身近に納めているのが消費税です。商品を買ったり、遊園地に行ったり、映画を見たりするときもきつちり消費税を納めているのです。

私たちが住む日本では、消費税率が5%から8%と年々引きあげられています。これは百円の物品を買ったら八円の消費税を納めなければならぬということです。

では、この「消費税」は外国ではどうなっているのでしょうか。私は疑問に思い二〇一三年時点の世界の消費税についての資料を見てみました。すると、デンマーク、ノルウェー、スウェーデンといった国では、消費税が二五%もあると表示されていてとても驚きました。そして、こういった国の人々が消費税に比べて不満を持たないのには次のような理由がありました。北欧の国々には人が生ま

れてから亡くなるまでにかかる費用の多くが無料になっています。つまり、出産にかかる費用にはじまり、教育費、医療費、高齢になってからのさまざまな保障など、国が国のめんどうを見るしくみになっているのです。そのため、国の財政をささえる消費税が高くても税金を国に「取られる」などは考えません。多くの人が、自分のお金を将来のために「国にあずけている」と考えています。

また、デンマークでは消費税率が初めから高かったわけではなく、二五%になるまで何十年という時間をかけたそうです。国民がしっかりと政治家を選び、その政治家が国民が納得するかたちで決めてきたのです。投票率が八十%以上という数字はこうした背景があるそうです。

今回、様々な国の消費税について調べてみて、やはり税金は大切であることが分かり、日本もまだまだ他国のように税のあり方について改善していく必要があると思いました。

また、未来を担う私たち一人ひとりが「自分には関係ない。」

と思い消費税を知らずにただ納めるのではなくきちんとなめるべきだと考えます。私たち日本の選挙権は十八歳から。私にとつてはあと三年後の未来です。税金や国が私たちにとつてよりよいものになるように、デンマークの国民を思い出して誰がふさわしいのか投票したいと思います。

私たち日本の未来のために。

